

国際平和拠点ひろしま構想推進計画（案）に係るパブリックコメント
の実施結果について

令和 7 年 3 月
平和推進プロジェクト・チーム

1 要 旨

平成 23 年 10 月に策定した「国際平和拠点ひろしま構想」を具体化する計画として、令和 4 年度策定計画（計画期間：令和 4 年度～令和 6 年度）が終了することから、令和 7 年度以降 3 か年度の取り組むべき計画を策定するため、計画（案）に対するパブリックコメントを募集した。

2 実施の概要

- (1) 募集期間 令和 7 年 2 月 17 日（月）～3 月 18 日（火）
(2) 募集方法 県ホームページへの掲載、行政情報コーナー、県総務事務所（支所）、平和推進プロジェクト・チームに資料を配置

3 結 果

- (1) 意見数 3 件（3 名）※前回（令和 4 年度計画時）1 件（1 名）
(2) 意見の概要と県の考え方

意見の概要	県の考え方	該当頁
【意見 1】 4 本計画（2025（令和 7）～2027（令和 9）年度）における取組 <u>1 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくり【安全保障アプローチ】</u> <u>(1) 核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方に向けた調査研究</u> ・「ひろしまウォッチ」発信に向けた取りまとめの場も重要だが、これまでの東アジア・世界の核軍縮・不拡散に関する政策議論・提言の機能も存続させるべきでは。	・ご意見のとおり、これまでの東アジア・世界の核軍縮・不拡散に関する政策議論・提言の機能も重要ですので、修正いたします。	7 頁
修正前	修正後	
○ これまで、核軍縮等をテーマとし、非政府レベル（トラックⅡ）での多国間協議の場として実施してきた「ひろしまラウンドテーブル」を、主要国に対して、核リスクの低減や核軍縮に関連して、そのコミットメントの結果について責任を問う「ひろしまウォッチ」発信に向けた取りまとめの場へ移行（2025～2027 年度）	○ これまで、東アジア・世界の核軍縮等をテーマとし、非政府レベル（トラックⅡ）で政策を議論・提言してきた「ひろしまラウンドテーブル」において、さらに、主要国に対して、核リスクの低減や核軍縮のコミットメントの結果について責任を問う「ひろしまウォッチ」の取りまとめを行う。（2025～2027 年度）	
【意見 2】 4 本計画（2025（令和 7）～2027（令和 9）年度）における取組 <u>3 次世代平和人材の育成</u> <u>(1) 核兵器廃絶に向けて活躍する人材の育成</u> ・平和構築にかかわる人材育成と核廃絶に関する人材育成は、平和のための人材教育であるため大きく通じるものがあるにしても、具体的なレベルでは異なる取り組み・専門性が必要になる。核廃絶と平和構築は、異なる問題領域であることを踏まえた書きぶりが望ましい。	・ご意見のとおり、具体的なレベルでは異なる取組・専門性が必要になりますので、分けて記述するように修正いたします。	10 頁

修正前	修正後
3 次世代平和人材の育成 原子爆弾による荒廃から復興を成し遂げた経験や平和と希望のシンボル性を生かして、ユニタール（国連訓練調査研究所）広島事務所や JICA（国際協力機構）中国、ひろしま国際センターなどの国際的な人材育成機関、また、県内教育機関との連携により、世界の人々へ、広く、復興・平和構築について学ぶ機会を提供するなど、紛争終結地域や開発途上国の発展に貢献する。 (1) 核兵器廃絶に向けて活躍する人材の育成 【目指す姿】 広島で平和を学んだ将来を担う若い世代が、核兵器廃絶・核軍縮に関わる専門知識の習得を通じて、核軍縮を取り巻く厳しい国際情勢を打破し、さらに次世代へと平和をつないでいく人材として国際社会で活躍している。 併せて、戦争で傷ついた地域の復興を支える取組に参画するなど、様々な形で平和を希求する活動に関わっている。 【主な方向性】 ○ 県内の人材育成機関・教育機関との連携 ユニタール、JICA、大学等と連携し、広島が有する経験や資源を生かした平和構築人材育成強化事業を実施する。 【今後の主な取組】 ○ 対象者の専門性・興味・関心に応じた人材育成事業の実施 ・ユニタールや JICA による平和構築事業等に、ひろしま復興プロセス研究の成果を活用するとともに、新たなコース・セミナーの設置を働きかけるなど人材育成コースの充実・拡充（2025～2027 年度） ・高校生を対象とした人材育成事業「グローバル未来塾 in ひろしま」などの実施（2025～2027 年度） ・大学生・大学院生・若手研究者等を対象とした人材育成事業「広島-ICAN アカデミー」の実施（2025～2027 年度） ・幅広い世代の学生や一般市民を対象とした平和教材の配布（2025～2027 年度） ・若者向けの平和学習プログラムの修了生も参加する「国際平和のためのユース対話イベント」の実施（2025～2027 年度）	3 次世代平和人材の育成 原子爆弾による荒廃から復興を成し遂げた経験や平和と希望のシンボル性を生かして、ユニタール（国連訓練調査研究所）広島事務所や JICA（国際協力機構）中国、ひろしま国際センターなどの国際的な人材育成機関、また、県内教育機関との連携により、核兵器廃絶に向けて活躍する人材や、紛争終結地域や開発途上国の発展に貢献する人材を育成する。 (1) 核兵器廃絶・平和構築に向けて活躍する人材育成 【目指す姿】 広島で被爆の実相を理解した若い世代が、核兵器廃絶・核軍縮に関わる専門知識の習得を通じて、核軍縮を取り巻く厳しい国際情勢を打破し、さらに次世代へと平和をつないでいく人材として国際社会で活躍している。 また、広島の廃墟からの復興の歩みを理解した若い世代が、戦争で傷ついた地域の復興を支える取組に参画するなど、様々な形で平和を希求する活動に関わっている。 【主な方向性】 ○ 県内の人材育成機関・教育機関との連携 ユニタール、JICA、大学等と連携し、広島が有する経験や資源を生かした人材育成事業を実施する。 【今後の主な取組】 ○ 対象者の知識・経験・興味・関心に応じた人材育成事業の実施 （核兵器廃絶・平和構築） ・高校生を対象とした人材育成事業「グローバル未来塾 in ひろしま」などの実施（2025～2027 年度） ・幅広い世代の学生や一般市民を対象とした平和教材の配布（2025～2027 年度） ・若者向けの平和学習プログラムの修了生への効果的なフォロー策の検討（2025 年度） （核兵器廃絶） ・大学生・大学院生・若手研究者等を対象とした人材育成事業「広島-ICAN アカデミー」の実施（2025～2027 年度） ・若者向けの平和学習プログラムの修了生も参加する「国際平和のためのユース対話イベント」の実施（2025～2027 年度） ・平和に関する基礎知識や活動経験を有する高校生・大学生を対象に、大学等との連携による人材育成事業「被爆 80 年人材育成事業」を実施（2025～2027 年度）

修正前	修正前	
・平和に関する基礎知識や活動経験を有する高校生・大学生を対象に、大学等との連携による人材育成事業「被爆 80 年人材育成事業」を実施 (2025 年度～2027 年度) ・若者向けの平和学習プログラムの修了生への効果的なフォロー策の検討 (2025 年度)	(平和構築) ・ユニタールや JICA による平和構築事業等に、ひろしま復興プロセス研究の成果を活用するとともに、新たなコース・セミナーの設置を働きかけるなど人材育成コースの充実・拡充 (2025～2027 年度)	
【意見 3】 4 本計画 (2025 (令和 7) ～2027 (令和 9) 年度) における取組 4 持続可能な平和推進メカニズムの基盤整備 (3) 拠点構想の推進 ・【主な方向性③】として 平和産業の育成・振興を追加・挿入してはどうか。 【主な方向性③】 ○平和産業の育成・振興 いわゆる平和産業※の育成・振興を通じ、平和の持続化に対する産業や企業の役割を明確化するとともに、新しい取り組みを支援する。 【今後の主な取組③】 ・へいわ創造機構ひろしまに平和産業の参加を推奨するとともに、平和産業（企業）の新しい商品・サービス・イベント等の取り組みを支援する。 ※平和産業とは、平和でないと成長しない、または平和の実感を提供できる産業、例えば、宿泊、飲食等の「おもてなし産業」、平和を実感するようなアニメやファッション、地域の伝統産業、あるいは国際平和に貢献する医療や食品産業など	・持続可能で平和な世界の実現には、経済界による主体的で幅広い参画が不可欠であり、これまでも、世界平和経済人会議を開催してまいりましたが、今年は、5 月に国内外のトップリーダーが参加する「2025 ひろしま国際平和&ビジネスフォーラム」を開催し、幅広い議論を通じて、ビジネスによる平和貢献について議論を行い、広く発信することとしております。 ・環境への配慮が、経済界にとって、新たな行動原理かつ大きなビジネスチャンスとなっているように、平和につきましても、経済界における新たな行動原理となり、具体的な活動につながっていくよう、機運醸成を図ってまいります。	13 頁

4 今後の方針

- 計画案については、字句整理を行うとともに、【意見 1】、【意見 2】を踏まえ、上記のとおり修正し、計画を確定する。